

全 学 共 通

国 語

(60分 100点)

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
  - ② 解答にはH BまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルはH BまたはBの芯であれば使用可）を使用しなさい。
  - ③ マークシートの解答用紙には、氏名、受験番号、科目を記入する欄と受験番号、解答科目をマークする欄があります。
  - ④ 解答方法は、マーク式（解答番号を選択する方式）です。マークシートの解答用紙にマークしなさい。
- 例えば、**10**と表示のある問いに対して③と解答する場合は、下の（例）のように**解答番号10の解答欄の③**にマークしなさい。
- ⑤ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高くあげて監督者に知らせなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

※ 問題に使用した文章の表記は、一部改めた場合がある。

国

語

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

深く考えて見るまでもなく、自分とは違った文化、宗教、動物観をもつ他の国の人々が、犬を殺そうと食べようと、それに対して一々文句をつける筋合いは全くないはずである。これがやれるのは、自分の文化が他の文化よりも優れていて、唯一の正しい人間の生き方の反映であるとする自己中心的世界観を持つ人間に限る。この考え方がいかに馬鹿げた、はた迷惑なものであるかは論証する必要もないほど自明だと思いが、念のため二、三の点から考えてみよう。

インド人の多くは、宗教上の理由で牛肉を絶対に食べない。牛は神聖な神の使いと看做されているためである。

またよく知られているように、イスラム教徒は豚肉を不浄のものとして忌み嫌う。豚肉を食べないどころか、豚肉を料理した道具で彼等の食物を調理することも許さないほど徹底している人もいる。この点ではユダヤ教徒も全く同様である。

さてこのような信念を持ったヒンズー教徒のインド人やイスラム教徒のアラビア人が、イギリス人やアメリカ人に向かって、牛肉を食べることは神を冒瀆する許せぬ行為である、豚肉を食物とするなど人間にあるまじき蛮行であると言って、今後一切の食事から牛と豚を追い出せと要求したとしよう。果たして英米人はこの要求を認めて牛肉や豚肉の食用禁止に踏み切るだろうか。

犬を食べるのは残虐野蛮な行為だから止めると威丈高に主張するような英米人は、恐らく □ などと言うだろう。

しかしそれならば、犬の方が家畜としての歴史は遙かに長い。そして古代の住居の発掘跡には、明らかに犬を食用としていた証拠が到る所に見つかっている。要するに英米人が犬を食べないのは、彼等の現在の文化や動物観の中では、犬は食べてはいけないことになっていると言うだけに過ぎない。事実の面での正邪ではなく、ものの見方、つまりイデオロギーの問題なのである。

日本人である私も、実は犬を食べることだけは、どうあっても御免こうむりたい。( X 犬を食べる習慣は、つい先頃までは日本各地にも普通に見られたことである。)殊に私は大の犬好きだから、地上のどこかで犬が殺され食べられているという事実は、考えるだけでも余り愉快なことではない。

しかし、だからと言って私は他所の国まで行って、その行為が野蛮だ非人間的だと言って止めさせるつもりは毛頭ない。 Y 商品不買運動などで脅迫するなど、それこそもつての外の蛮行だと思う。自分の文化が大切だと思えばこそ、他人の文化もその人にとつては、かけがえのないものだと思えるからである。そうでなければ一方的な a 唯我独尊に陥る他はないではないか。

世界が文字通りに狭くなり、異民族同士の交流が日々に増大し、異文化との共存が避けられない今日、私たちは自分とは違う、自分はどうあっても容認できない生き方、考え方を我慢する寛容の精神がなければ、世界は絶えることのない争い、大混乱の連続となることは明白である。だからよその国の食習慣に文句を言っ**B**てはいけないのである。

しかし私のこの議論に対して、恐らく多くの読者から、私の主張は一応理屈としては理解できるが、でもやはり犬を食べるのは感心できないのではという反論が出るような気がする。それは日本人が一般に自分の立場に固執する強固な自己中心主義を持つ人間ではないからだ。良く言えば主義信条といった目に見えない思想的な面では、世界にも珍しいほど日本人は柔軟なのである。

だからこそ、日本で何百年と続いた四つ足の獣に関する肉食禁忌が、明治の文明開化、西欧化と共に、それこそ一夜にして消え、今では若い人にとって牛肉や豚肉は御馳走どころか、日常の食生活の不可欠な基本的要素とまでなっているわけだ。

自分の文化に長く定着していた肉食のタブーを、進歩の名の下にあっさりと返上できるような民族的気質は、人類社会に広く普遍的に見られるどころか、極めて特殊例外なものである。このことを全く自覚していない日本人は、自分たちが無意識のうちに西欧文化至上主義に犯されていることも気付かず、何となく犬を食べることは野蛮で、反対に牛や豚を食べては駄目だという文化を、遅れたもの、近代化に適合しないものと簡単に考えてしまうのである。

このように自分の文化や立場の自覚が弱く、国際的な場面で異文化から非難を受けると、気軽にすぐ自己変革をすることに余り抵抗を感じない日本人だからこそ、最近のように捕鯨問題で各国の批難の矢面に立たされると、別に鯨など食べなくても、他にいくらも食物があるのではないかと、一部の業界関係者以外は、熱心に日本の立場、日本人の考えを主張し弁護することに気乗りではないのだ。

捕鯨の問題は、もしそれが純粹に資源枯渇、鯨の絶滅といった生物学、生態学的な問題ならば、これを熱心に議論し研究することは絶対に必要である。私も野生の生物保護運動に長く関係してきた者として、鯨という地球上最大の哺乳類が人間の手で永久に姿を消すような事態は、何としても阻止したいと思う。

しかし捕鯨禁止の声の中に、文化的な問題、世界観の違いが含まれている限り、この面の議論は、さきの資源枯渇の問題とは全く別個に、日本人は日本人の立場を広く世界に主張しなければいけないと思う。(注)日本が負け、韓国が譲り、フィリピンが罵られるという形で、**C**世界の価値観、文化をすべて西歐的なものに単純化することの計り知れぬ危険を、日本人はもつと自覚すべきである。そして世界に対する日本の実力から言っ**C**て、この世界の多様性を強く主張し、それを守ることこそ日本の役目であり責任なのだ。

日本の社会科学や文化科学が不毛な理由は、究極的に言えば「世界をどう見るか」、「人間の生き方をいかに解釈するか」という、

目に見えない領域についての自己の立場からの関心とこだわりが、これまでの日本人に極めて稀薄きだったことにある。

このような自己主張の弱さは、日本が後発途上国である間は、むしろ日本の物質的向上に役立って来たことは否定できない。しかしひとたび世界の経済超大国になってしまった日本は、今度はこの物質的な力と繁栄を、どこまで精神的な裏うちで強固なものにできるかを問われているのだ。

これまでのように与えられた世界の精神的な既存の環境を、自分の手では変えられぬ所与の宿命と考え、反対や抵抗に会えば素速く相手に迎合する方向で自己を変えろという精神構造が続く限り、日本は本当の世界国家になれる見込みはない。それどころか折角手に入れた経済的成功ですら、一過性のはかない夢で終わる **b** 公算くさんが大きいと私は考えている。

(鈴木孝夫『武器としてのことば―茶の間の国際情報学』による)

(注) 日本が負け、韓国が譲り、フィリピンが罵られる——鯨食文化を持つ日本が世界各国から非難されて捕鯨禁止に追い込まれた事態や、犬を食用にする文化を持つ韓国やフィリピンも、その食文化を非難された事態を踏まえた表現。

### 問1

**X** **Y** に入る言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものを重ねて用いてはならない。解答番号は **1** **2**。

**X**

**1**

**Y**

**2**

- |   |      |   |      |   |      |   |     |   |      |
|---|------|---|------|---|------|---|-----|---|------|
| ① | とにかく | ② | ほとんど | ③ | まして  | ④ | よもや | ⑤ | もつとも |
| ⑥ | きわめて | ⑦ | すぐに  | ⑧ | いくぶん |   |     |   |      |

### 問2

波線部 a **く** b の本文中の意味として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選びなさい。解答番号は **3** **4**。

「<sup>a</sup>唯我独尊」

3

- ① 自分が世間知らずであることを思い知ること
- ② 人は誰しも個人としての尊厳が保障されること
- ③ 自分に都合のいいように理屈をこじつけること
- ④ 自分だけが特別優れていると過信すること
- ⑤ 他者を無視して勝手気ままに振る舞うこと

「<sup>b</sup>公算」

4

- ① 妥当性
- ② 可能性
- ③ 必然性
- ④ 蓋然性
- ⑤ 一般性

### 問3

「<sup>A</sup>この考え方がいかに馬鹿げた、はた迷惑なものであるかは論証する必要もないほど自明だと思う」とあるが、筆者が「この考え方」を「馬鹿げた、はた迷惑なものである」とする根拠は何か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は5。

- ① 世界には宗教上の理由から牛や豚を絶対に食べない人がいる一方で、牛や豚を家畜として飼育し、それを食用としている人もいること。
- ② 犬は人間にとって大変貴重な家畜であり、それを殺して食べるなど言語道断の所業であるというのは、世界標準の考え方になっっていること。
- ③ 交通通信網が全世界規模で発達した今日、異民族同士が交流する中で自分とは異なる文化を容認する精神なくしては、異文化の共存が成立し得ないこと。
- ④ 世界には多様な民族とそれぞれが持つ独自の文化が存在し、宗教や動物に対する考え方も一様でないという認識は、世界共通のものになっていること。
- ⑤ 欧米人の中には、西欧文化こそが世界で最も優れた文化であり、その恩恵を受けることが人間として唯一の正当な生き方だと信じて疑わない者がいること。

問4

に入る言葉として文脈上最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **6**。

- ① 牛や豚は家畜であつて、家畜とは人間が消費するために作られたものだからかまわない
- ② 今後は牛や豚ではなく他の家畜を食用とすることで、他の文化に意見することができるはずだ
- ③ 犬は家族同様の存在であり、それを食用にすることはキリスト教の教義に反する蛮行である
- ④ 西洋文化こそが絶対的正義であり、犬を食用にする下等な文化は排除すべきである
- ⑤ 牛や豚を食用とすることは何の問題もなく、それを宗教上の理由で禁ずることこそ問題である

問5

「Bしかし私のこの議論に対して、恐らく多くの読者から、私の主張は一応理屈としては理解できるが、でもやはり犬を食べるのは感心できないのではという反論が出るような気がする」とあるが、このように筆者が言うのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **7**。

- ① 日本人は古くから犬を大切な家族として生活を共にしてきたので、食用にするには忍びないと考えるから。
- ② 日本人は犬を食べるのは野蛮だという観念から脱却できず、犬を食べる国の文化を内心では否定しているから。
- ③ 日本人は国際感覚に優れ、国際情勢に対応するために容易に自己変革できる柔軟性を備えているから。
- ④ 日本人は主義信条を古来持たないために、異文化の非難に遭遇するとたちまちそれに迎合してしまうから。
- ⑤ 日本人は自国の文化に対する自覚が乏しく、知らずしらずのうちに西欧文化の価値観に傾いているから。

問6

「C世界の価値観、文化をすべて西欧的なものに単純化することの計り知れぬ危険」とあるが、ここに言う「危険」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **8**。

- ① 世界が狭くなり、異民族との共存が避けられない今日において、異文化に対する寛容の精神がなければ世界は争いや大混乱の

連続になってしまうということ。

② 西欧諸国が一貫して他の国々へ要求し続けた価値観には、独善的なものが数多く見られ、それが異民族との紛争を引き起こす原因ともなっているということ。

③ 異民族同士の交流、異文化との共存が避けられない今日、自分の文化へのこだわりを捨てることは、西欧的なものに侵食されることになってしまうということ。

④ 世界の価値観が、西欧的な文化に一元化されてしまうことによって、地球上に存在する様々な民族の個性ある独自の文化が失われてしまうということ。

⑤ 西欧的な文化に単一化されてしまうことによって、世界の経済が沈滞化し、経済大国としての日本の存立基盤が揺らぐことになってしまうということ。

## 問7

本文の主旨として最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。 解答番号は **9**。

① 世界を支配してきた西欧の文化にかげりが見え始めてきた今日、これまでのような西欧追従の姿勢を改め、新たな世界秩序の構築を目指して努力することが、日本に課せられた使命である。

② 英米人たちは自分たちの文化は他の文化よりも優れているという自己中心的な世界観を持つ人間であるが、日本人も彼らと同じように自国の文化こそが最も優れていることを世界に向けて発信しなければならぬ。

③ 西欧の文化を優れたものと思いつつ、また反対や抵抗にあえばすぐに自己変革する姿勢を改め、自己の立場と世界の多様性を強く主張し守ることが、国際社会における日本の責務である。

④ 自己とは違った文化、宗教、動物観を持つ他の国の人々が犬を殺して食べようと、それに文句をつける筋合いはないはずであり、他国の食習慣に口出しすることは慎むべきである。

⑤ 捕鯨問題が、純粹に資源枯渇、鯨の絶滅といった生物学的、生態学の問題ならば、熱心に研究して議論すべきであるが、それがイデオロギーの問題であるなら、捕鯨禁止活動には断固反対すべきである。

二〇一七年に書かれた次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は大学院生のときに物理学専攻にいて、ショウジョウバエの神経発生から始まり、サル<sup>1</sup>の記憶中枢の研究をしました。それから人間の脳を対象とするようになり、特に言語能力、つまり言語を使って考える能力という、人間だけが持つ脳機能について研究しています。

人は誰でも、ほとんど苦もなく言葉が話せるというのは驚くべきことだと思いますか。例えば、学校の授業のように文法を教わらなくとも、母語の文法で外国語のような間違いをすることはまずないでしょう。つまり、母語とは後天的にスキルとして身につけたものではないのです。脳にとって言語は特別なもので、生まれつき触れた母語は自分の思考のすべてを司<sup>つかさど</sup>るような存在になります。ほとんど考えることと等しいもの、自分の記憶からも切り離せないものになるのです。

それに比べると、脳は後から覚えるものに対してかなり不得手です。母語の獲得と第二言語の学習に大きな開きがあることから分かります。私は中1の頃から英語が大好きだったので、その一方で思うようにならないもどかしさを味わいました。たとえば、テレビドラマの英語がよく聞き取れない。『刑事コロンボ』の台詞<sup>せりふ</sup>を録音して何度も聴いてみましたが、“Son of a gun!”というのが「サラバガン」としか聞こえず、辞書の引きようもないのです。日本語の吹き替えは「たまげたね」と訳されていましたけれど。小さい頃から英語圏で暮らしていればそんなことはないのに、どうして中1から学習してもだめなんだろう、という思いがずっと自分の中でくすぶっていました。

音楽も英語と同じように感じます。私は小2からバイオリンを習いましたが、なかなか身についたという実感がありませんでした。音楽が大好きで、素晴らしい演奏を繰り返し聴いているのに、弾くとつまらない演奏しかできないのはなぜだろう、と悩んできました。今頃になって、**A** 音楽は言語の延長線上にあるということが納得できるようになりました。言葉に抑揚をつけていけば歌になりますし、分節化したり強調したりするときの音韻の変化もよく似ています。音楽は特別な能力ではなかったのです。

今年から、音楽についての脳科学的な研究を、スズキ・メソッドで有名な才能教育研究会と共同で始めることになりました。これまで私は言語の研究をしてきましたが、それによって人間を理解したいと思ったときに、行き当たるのは心の問題です。言葉を音声にして聞いたり話したり、そして文字にして書いたり読んだりできるわけですが、音声や文字の情報は表層に過ぎません。言葉を通じて本当に伝えたいこと、いま心にある考えや思いは、ごく一部しか言語化できないのです。

音楽も、伝えているものはやはり心ですね。喜びやかなしみを音楽で伝えたときに、それを通して多くの人が感動し、共有してくれる。美術ならば、絵画や彫刻といった作品を通じて、やはり心を伝えています。

その一方で、音楽などのあらゆる芸術を深いところで支えているのは、人間の言語能力だと考えています。それは、目に見えない構造に注目することで明らかになります。音楽なら楽章・楽節・モチーフ、絵画なら全景・主題・ディテールという入れ子状の構造は、**X** という言語の階層性と同等です。芸術とは、言語を基礎にしつつ、美を感じる心にも関わる、脳の高次機能なのです。

私は芸術に深く接するようになってから、芸術が新たなサイエンスと結びつくとき、人間の最も根本的なことを明らかにしてくれるのではないかと確信するようになりました。きっかけは、『芸術を創る脳』（2013年、東京大学出版会）という本を作るに際して、4人の方々（曾我大介さん、羽生善治さん、前田知洋さん、千住博さん）と芸術をめぐる対話をしたことです。これまでの脳研究で、芸術の一面を取り上げたものはありましたが、すべての芸術の**Y** となるような本質的で深い問題設定がなされたことはありません。たとえば、音楽は言語にどこまで近いものなのか、どのように音楽は人に伝わるのか、よりよい演奏とはなにか、なぜ人間は美を感じられるのか。そういう疑問に対する答を一つ一つ積みあげていけば、人間の心という主観的でとらえがたい問題にも、今一歩サイエンスで近づけるのではないかと期待しています。

科学の研究では、客観性・普遍性・再現性が特に重視されます。ところが芸術では、主観性・個別性・歴史性の方が重きを置かれるものです。たとえば、私はベートーヴェンが好きだけれどブラームスは嫌いだという主観性、同じ演奏を聴いても意見が分かれるという個別性、そして一期一会の体験といった歴史性が常に現れます。科学の対象になりやすい部分に限定して音楽の研究をしたとしても、「それは音楽ではない」という誇りを免れないでしょう。

それでは、言語の研究はどうなのでしょう。言葉にも主観が入るでしょうし、個別の言語には歴史の影響が色濃く反映されています。しかし、言語の核心にある文法判断的を絞ると、見事な客観性・普遍性・再現性が現れるのです。このことに気づいたのが、言語学者のノーム・チョムスキーで、「普遍文法」という概念を唱えて、人間は言語を司るための文法知識が生得的に備わっているというのを初めて明らかにしました。私たちの脳研究も、そのことを客観的に裏付けようとしているところではあります。

そこで、表面的なものをできるだけとりはらって、目に見えない「音楽の核心」、いわば音楽の「普遍文法」に的を絞ることができれば、実験のまな板に載せて、芸術の本質という人間の根本を脳から明らかにできることでしょうか。そのことを目指したいと考えています。

最近、2045年頃に人工知能（AI）が人間の知能を越えるだろうというシンギュラリティ（技術的特異点）の問題が**一人歩き**していますが、その未来予想に科学的な根拠はありません。要は、人間が進歩をあきらめて、創造することをやめたときがシンギュラリティになるだけの話です。囲碁や将棋の棋士が人工知能に負けると話題になりますが、肝心な問題は、人間があきらめずに指し手を創造し続けるかどうかなのです。将棋棋士の升田幸三が「新手一生」をモットーとして勝負に挑んだように、AIに追いつかれたら、また新しい手を探せばいい。AIソフトが作曲しても、モーツアルトにはほど遠いと人間が評価できればよいでしょう。

言語に関連したAIについては、大企業がビッグデータをもとに解決できると楽観視しているところに限界があります。人間の脳は、ごく少数のデータから、それをはるかに超える創造性が発揮できるのです。チョムスキーが『統辞構造論』という著書で60年前に明らかにしたように、言語の文法判断は確率や統計、そして学習とも無縁です。この本で、“Colorless green ideas sleep furiously”（無色の緑の観念が猛烈に眠る）という文を“Furiously sleep ideas green colorless”と対比させて、前者の語順は文法的だが後者は文法的でないという判断を人は瞬時にできると問いました。どちらの文も統計的にはゼロの、誰も見たことのない文であり、学習したわけではないのに判断できるのです。B **ビッグデータ**による力ずくのやり方がいかに本質を見失っているか、明らかでしょう。最近のAIは翻訳がうまくなったというのは、表面的な評価です。

一方で語用論の問題もあります。たとえば「すみません、時計をお持ちですか？」という質問に対して、「もうすぐ2時ですよ」という答えは自然な会話です。そうした会話が成立するためには、話し手の心を対象として真意をくみとる能力が必要です。人の心を理解するようなことは、果たして未来のAIにできるでしょうか。

創造性の力を最も発揮できるのは、10歳に満たない子どもたちだという事実があります。ニカラグアで1980年代に発見された新たな手話について調査したところ、小学校低学年の子どもたちが上級生に言葉を教えていることが明らかになりました。また、不完全な言語（ピジン）を話す親の元に生まれた子どもたちが、クレオール化といって、十全な言語を作り出すということも知られています。一緒に育つ双子の兄弟は、親も知らない短い言葉を次々と作ってしまうそうです。子どもたちには、そうした**c 天賦の才**が備わっているのですね。

しかし大人は、子どもたちに大量の情報を与えて教育するうちに、その事実を忘れがちです。しかも、インターネットによる検索は、考える前に調べると言っているようなもので、思考力や想像力を奪う恐れがあります。限られた1冊の紙の本からどれだけのことが汲み取れるかが大事です。最初は「わからない」と言っていた子どもたちが、読書を繰り返すうちに驚くほどの吸収力を示すこと

でしょう。芸術では、個人レッスンを基本としながら、師を越える弟子が輩出してきました。学問も全く同じだと思います。

**C** 教育に新しい光を当てれば、次の世代が自分たちを超える新しいものを生み出していくでしょう。そうやって進歩が続く限り、シンギュラリティのような限界はあり得ません。人間の脳はそれだけの創造的なポテンシャルを秘めているのです。

(「考える脳は創造する 酒井邦嘉」、季刊『考える人』による)

**問1** 波線部 a、b、c の本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **10**、**12**。

「a 裏付けよう」

**10**

- ① 核心に迫る探究をしよう
- ② 根本的に明らかにしよう
- ③ 様々な視点で説明しよう
- ④ 主観を排して論じよう
- ⑤ 証拠をあげて証明しよう

「b 一人歩きして」

**11**

- ① 独特の考えとしてもはやされて
- ② 根拠もなくむやみに広がって
- ③ ただ漠然と世の中に信じられて
- ④ 当事者の意図とは無関係に進んで
- ⑤ 未来像として唯一成立して

「c 天賦の」

**12**

- ① 生まれつきの
- ② 欠けるところのない
- ③ この上なく優れた
- ④ 他にはない独自の
- ⑤ 無邪気で純粋な

**問2**

**X**

に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **13**。

- ① 単語・文・文節
- ② 文章・文・単語
- ③ 文章・文節・文
- ④ 文節・単語・文
- ⑤ 文節・文章・文

問 3

Y

に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 亜流
- ② 源流
- ③ 主流
- ④ 底流
- ⑤ 奔流

問 4

A 「音楽は言語の延長線上にある」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 一見関わりの薄い言語と音楽だが、両者が基づく構造は同等であるため、音楽は言語を基礎としてその本質を捉えることができるということ。
- ② 英語という言語も音楽も、長い間努力したとしてもなかなかうまく習得できないという点では、非常に似通った本質を持っているということ。
- ③ 音楽が心を伝えるというのは非常に分かりやすい話だが、それに照らして同様に言語も心を伝えているということが理解できるとのこと。
- ④ 言語に比べて音楽は特別な能力に考えられがちであるが、言語に抑揚をつければ歌になることから、それは決して特別ではないということ。
- ⑤ 身近な言語の本質を目に見えない構造から解き明かす方法を手掛かりにして、音楽の本質をその構造から捉えることができるということ。

問5 「ビッグデータによる力づくのやり方がいかに本質を見失っているか、明らかでしよう」とあるが、「ビッグデータによる力

づくのやり方」が「本質を見失っている」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **16**。

- ① AIが、膨大な情報からその量に任せて言語の文法的な正誤を判断するということは、誰も見たことがない文に対してはデータが存在しないので、いずれ限界に達し、その方法は破綻をきたすということ。
- ② 言語に関連したAIについて、膨大なデータに基づくことを根拠に、大企業はその能力を自分の都合のいいようにねじ曲げた後で肯定的に捉えているが、それは後にしつぺ返しとして危機を招くということ。
- ③ これまで誰も見たことがない文であるにも関わらず、AIが膨大なデータを基にその正誤を判断できると大企業が高く評価することは矛盾をはらむので、言語とは何かという核心についての理解を欠いているということ。
- ④ 大企業が、根拠となるデータの膨大さに任せて、言語に関連したAIを人間より高く評価することの過程において、乏しい情報からでも十分な理解を導きだすような、人間の創造性は見逃されてしまっているということ。
- ⑤ 人間の脳は、ごく少数のデータから、それをはるかに超える創造性を発揮するので、膨大なデータを利用するAIの分析方法とは相いれず、そもそも人間とAIを比較すること自体が的を外れているということ。

## 問 6

「C 教育に新しい光を当てれば、次の世代が自分たちを超える新しいものを生み出していつてくれることでしょう」とあるが、筆者はなぜそう考えるのか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **17**。

- ① 現代の教育において、相手の心を対象として真意をくみとるような心を育む教育は行われていないので、そのような心を重視した教育を進めていけば、AIにはない、他者理解を根拠とした思考力や想像力とともに人間は進歩することで、AIとは一線を画する形でその本質的な力を発揮することができるから。
- ② 現代の教育において、AIによるシンギュラリティという根拠のない問題が背景となつて、AIと同様に膨大な情報が子どもたちに与え続けられているので、まずはAIと人間の、創造性の発揮の仕方がそもそも違うという視点を起点として考えることで、人間の進歩にとって最もふさわしい教育が見いだせるから。
- ③ 現代の教育において、子どもたちが考えるよりも先に大量の情報が与えられることで、何かを生み出す力の芽を摘んでしまっているので、そのような教育のあり方をあらためて、限られた情報から思考する力を育むようにすれば、シンギュラリティへの危惧がなくなるほど、人間は限りなく進歩することができるから。
- ④ 現代の教育において、10歳に満たない子どもが最も創造性の力を発揮するのにも関わらず、どの年齢に対しても膨大な情報を与えるような画一的な教育を施しているので、それぞれの年齢で最も効果的な教育のあり方を確実に設定することで、AIに追いつかれることのないような、人間の進歩を促すことができるから。
- ⑤ 現代の教育において、ひたすら子どもたちに過去の膨大な情報を与えることで、考える力を奪ってしまっているため、過去や古いものを振り返るのではなく新しいものを創造する力を育むような教育に方向性を変えていけば、膨大な量による思考で人間を凌駕するAIにも負けない、人間の本質的な力を伸ばすことができるから。

問7

本文の内容と合致するものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 幼いころからの体験の積み重ねだけで話せることから、母語を操るということには、文法的な知識とは無関係の、もともと人間に備わった後天的な言語能力が、大きく関係していると言える。
- ② 脳の機能、特に言語に関わる高次機能を糸口として、音楽や芸術に関わる主観的な心の動きを構造的に考えることで、その仕組みを解き明かすための試みは、非常に意味のあることだ。
- ③ 言語の能力さえ磨けばその他の芸術的能力が上がるわけではないが、言語と芸術の能力が強く関わっていることから考えると、言語の能力もやはり芸術の能力同様に特別なものである。
- ④ 科学では客観性が重視されるが、言語と芸術においては主観性が重視され、後者について科学的考察をしても、それは恣意的な考察として批判されるので、結論に至ることはできない。
- ⑤ 上級生に言葉を教える子どもの姿から、教育の画一的ではない多様な形が垣間見え、次の世代の教育が現在の教育を超える新しいものを生みだしていくということが大いに期待できる。

三

漢字・語句について、次の問いに答えなさい。

問 A～Hの各傍線部に相当する漢字を含むものはどれか。また、I～Jの空欄に入れるのに最も適当な語句はどれか。それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は19～28。

A タン|ペイキュウに事を進めてはならない。

- ① ゴウタン|な決断だ。
- ② タン|ザクに願いを書く。
- ③ 踏切の手前でイッタン|停止する。
- ④ うまくタン|シヨが開けた。
- ⑤ タン|サイボウの生物。

19

B タイギ|そうに腰を上げる。

- ① ベンギ|を図る。
- ② ギ|フンに駆られる。
- ③ チキュウギ|を回す。
- ④ ジギ|に等しい拙い考え。
- ⑤ サンギ|として明治の政治に携わった。

20

C ギョカク|量を各国間で調整する。

- ① 敵をイカク|する。
- ② カク|セイの感がある。
- ③ 果物をシュウカク|する。
- ④ 票を大量にカク|トクする。
- ⑤ 昏睡こん状態からカク|セイする。

21

D 梅の木をボンサイ|に仕立てる。

- ① 日本銀行のソウサイ|。
- ② 森林をバツサイ|する。
- ③ 新聞にケイサイ|する。
- ④ 促成サイ|バイのレタス。
- ⑤ 障壁面にサイ|シキを施す。

22

E 役割をブ|ン|タ|ン|する。

23

① 事件のホ|ッ|タ|ン|。

④ ガ|ン|タ|ン|に日の出を拝む。

② 犯行にカ|タ|ン|する。

⑤ フランス語にタ|ン|ノウな人。

③ ダイ|タ|ン|不敵な犯行。

F 毛筆でカ|イ|シ|に和歌を書きとめる。

24

① 反対勢力をカ|イ|ジ|ュ|ウ|する。

④ 五億円相当のキンカ|イ|。

② ツウカ|イ|な冒険小説。

⑤ カ|イ|コ|ンの念に駆られる。

③ 覆面をしたカ|イ|ジ|ン|。

G かつてのア|ヤ|マ|ち|を繰り返す。

25

① 軽口がゼ|ツ|カ|を招く。

④ 自らの行いをシ|ヤ|ザ|イ|する。

② 時代サク|ゴ|も甚だしい。

⑤ 結果よりもカ|テ|イ|が大事だ。

③ 失敗はないかとキ|グ|する。

H 暴力をフ|る|う|。

26

① 偉人の伝記にハ|ッ|ブ|ン|する。

④ 線状コウ|ス|イ|帯を予報する。

② 賞金を出し学術をシ|ン|コウ|する。

⑤ 虫がシ|ョ|ツ|カ|ク|を動かす。

③ ジ|シ|ン|でビルが倒壊する。

I 信賞[ ]を貰いた戦国武将。

27

① 疑獄

② 必罰

③ 絶賛

④ 滅私

⑤ 奉公

J 貧すれば[ ]とはまさにこのこと、生活が苦しいと賢人も愚かになってしまう。

28

① 長ず

② 乏する

③ 窮する

④ 鈍する

⑤ 通ず

(問題 終わり)

（  
余  
白  
）

（  
余  
白  
）